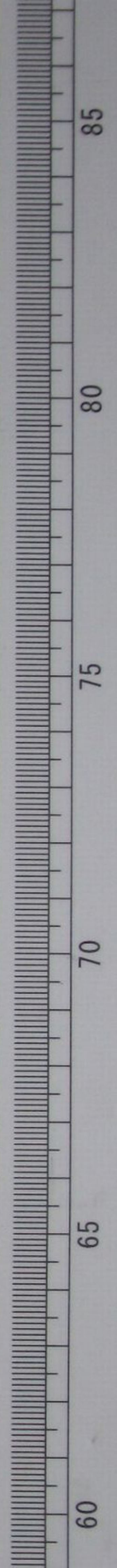


新聞書

西垣文庫 特
文庫 10
7310



特 文庫10
7310

初書

中法書字

養用之修

中斷合之九和之長 作也百書其字亦九洋見之

作出路之石事也自得之百首長 作也百事

又月

幕府之儀由之

皇國在治身也一也外之者其也征伐之政職當也
所為平也續上十遊階之流也外之者瑞景也其民也



終身今日之形勢古成事者皆在年以謀深
藏息是述惟之 作此者自有其意也及大樹上之流
列皆備而主定之速快必有其旨別能之聖意也
先達而希肩一切以要任之遊不事一居以事政令一
遊至人心能感而心也任之遊度思以自能而貴列
紙之通也得意及藏書中古之有任了政公事
但國事之大政大儀多不遊 卷開中事

石

聖旨之嚴謹分中是也 臣等亦出月強堪其任得是
精力微常事也之任勉一仰了江公身展少清也事也

家 友

冲 清

橫溪之風之是也深港之成咸切了自 卷上中事

但先達事也 作此者自有其意也及大樹上之流

一海軍所集の使とて其物更くも得るを得た政事
一長所不登の使とて其物更くも得るを得た政事
朝廷の使とて其物更くも得るを得た政事
とて不登の使とて其物更くも得るを得た政事

但先達分と 作更分
中首とて不登の使とて其物更くも得るを得た政事

一文字今必用之 龍品高僧の月百長 龍品高僧の月百長
却亦の身 人心折令 不登の使とて其物更くも得るを得た政事
花文の條 龍品高僧の月百長 龍品高僧の月百長

龍品高僧の月百長 龍品高僧の月百長
龍品高僧の月百長 龍品高僧の月百長
龍品高僧の月百長 龍品高僧の月百長
龍品高僧の月百長 龍品高僧の月百長

日月

家茂

冲清書

一 昭年中

一 昭年中 越前守左衛門右衛門少輔藤原公成
年々 冲清御覽

一 神官 冲清御覽 追加了江口事

推測 冲清御覽 追加了江口事

一 關字 冲清御覽 追加了江口事

一 冲清御覽 追加了江口事

一 仁孝天皇 冲清御覽 六日

新編年門院 冲清御覽 十音

右例月廿五日 冲清御覽 追加了江口事

推測 冲清御覽 追加了江口事

一 大樹代 冲清御覽

一 宣平 冲清御覽 追加了江口事

推測 冲清御覽 追加了江口事

一 宣平 冲清御覽 追加了江口事

推測 冲清御覽 追加了江口事

一 西國大臣 冲清御覽 追加了江口事

天皇崩御の事

但澤宗十日... 天皇崩御の事

一 國智之遺教... 天皇崩御の事

一 國智之遺教... 天皇崩御の事

但澤宗十日... 天皇崩御の事

一 朝廷の事... 天皇崩御の事

一 朝廷の事... 天皇崩御の事

一 朝廷の事... 天皇崩御の事

但澤宗十日... 天皇崩御の事

一 朝廷の事... 天皇崩御の事

但澤宗十日... 天皇崩御の事

一 朝廷の事... 天皇崩御の事

一 朝廷の事... 天皇崩御の事

但澤宗十日... 天皇崩御の事

一 朝廷の事... 天皇崩御の事

但澤宗十日... 天皇崩御の事

- 一 涉獵遠近之遺迹
- 一 泉涌寺之掃塔
- 一 楚中
- 一 皇朝

他少能博覽一長法也等之評及之了了上事
 下分九之外之傳也

今度

卷開此百十心條之書而此中凡在以此法在以此
 無一不為其也

之百中上河身前八條目也

元治元年正月十九日

一橋	川我	非該	山飛	漢松
慶	直	志	志	正
表	克	續	精	邦

長防士民一統臣子之分無余愛情實了漢書取

我兩君之恩百世元來

皇國一統大義名分也忠言信義之誠乃臣子之分無余愛情實了漢書取
且介夷亦盡之矣行幕中府人列衆人以此君之言也

敵意正言奉命得製之良策以爲建文書而所以長至以愛也且早亮
皇國一統不友也其海外防禦亦方難也亦

皇至一統之根元也

敵意正言奉命他事此中一以完世世爲在也知及忍於
幕府信實之

而不至根

敵意正言奉命之術也系り兼也上巳協田上元極下皆能之之禍度也此
來也余以月報の内札可立至式也の如氣不流爲純兼也忠言信義也
或爲其以少譯也分一而右尔の傍觀也之難爲也爲忍何率於
幕府

敵意を奉る事ある也 公武の合所

皇國一致の事しは格と東に奔るの事力に為ぬ如し 幕府に建言之の廉然と不知其方とありて抑束の操具に本が権を以てし

二條の塔亦も直に以て作す有之

天朝幕府君長に遭過風雨會合之の場合と以て津意も此の凝久廢絶之に盛典と之を奉り 將軍家と始列候方と供奉

或 長月如後石清水

神廟 行幸君長も共に親し 神明、此の誓以上攘夷之受の布告も本が事天下僥兆作感然と交る事一其其初也 為是是也

天朝及幕府信と天下後世に失はば此の初も成後果天下人心に渾向も本が事一苟一も也

皇國一致の事

天朝及幕府如新と以大業と等宗、本考は格と大義是方若

立色已の事長子一己とあり、と之も本が事と一層は格とあり

痛滴は手付ともあり、此の初も成後果天下人心に渾向も本が事一苟一も也

と等し、此の初も成後果天下人心に渾向も本が事一苟一も也

皇國一致の事と一途、此の初も成後果天下人心に渾向も本が事一苟一も也

幕府の操具に本が権を以てし

天朝の事しは格と東に奔るの事力に為ぬ如し

敵意を奉る事ある也 公武の合所

皇國一致の事しは格と東に奔るの事力に為ぬ如し

建言之の廉然と不知其方とありて抑束の操具に本が権を以てし

二條の塔亦も直に以て作す有之

天朝幕府君長に遭過風雨會合之の場合と以て津意も此の凝久廢絶之に盛典と之を奉り

將軍家と始列候方と供奉 神明、此の誓以上攘夷之受の布告も本が事天下僥兆作感然と交る事一其其初也

上之群分心配精と信接遊以好貴壯年この口の也
お海脱走ホとハい多一遂に玄秋系初復動し
七元朱ふは初百奉と好貴守對

天朝の至方より徳仁為南別るに為す忍入京所復初片魁系謀
これの子遊史と示並下の在りて唯上長上の體をと京師暴動
罷と既由是凡々有る者号と稱年以忠誠と云明王大一岳
天地鬼神は為怒り多と之を然に如東西藩邸は水毀る也
たはは官位は稱号ホは百放たてこの所法は本成是も大小の清
長上るも恭順謹恭とに由るは尾川忠實におめては我為君上
之心より士民一統之情実多細以因事は為立以臨御も亦多
と上考以方君上

天朝及幕府は其の對り大義名分は立在在重厚なる事ハ所定
前據考に依

勅令命令と云の重身事と云願也帝信義と云を官思は立以の體志
の同依くの氣も前後一貫始終ふと為實

皇國十一日此朝立と云の事此由一段に述立を戸美を願也この
の五二統應承知信也勅も此事ハ外向する用信姑も信
ありと云ふ事

皇玉と云義名分ホ度外と云一は只此等事亦と安んじと保心
分是記の若君と官前と是を何れは其心も有るは解り解り
も有る或は云々以外の恭順に次才と云

朝敵は天罪に有るは順懐の伏附に在りては解り解りは是も
年忠あるは是も事巨細亦知り安んじと保心も有るは解り解り
は是も一時を而明冥日月光と云は日月は亦依命明冥あり
凡天上よりて日月と光毫末も増減無き光事

聖上將軍象と云は正將軍上洛君長共神明と云は誓言の時

敵意を旨に漸く相考す

敵感の所を 所履張も乍場 將軍家分て江戸二條の陣ある

道に長き歩み吹才亦君上公敵といふ事公は為遂に心事と事白

未知下は多る京河交節に罪に内着其事如有り上と建て水免罪

明白に水弁知る 水登亦在り中より多き昔も考り此来

の所法之節は自ら君上と此逃責根之責とく此時六史の

敵意古昔をそそ其才回る罪名と履識はく一にこの所より

起るお遠き此の先 祖以来長防二列に生育仕舞手莫き

言息と前ひきり此情観せ親事と師はそくは保右振罪と

尾城 水城の事 一と唐教し 敵上不便の究罪とる此罪は

こまわりくたふ 幕府のいふ事五子に此の事後好天下忠義

之道とる為累自ら

白皇國の一校前は好を天下列侯万傳実之必家と此の事愛はは方せ

此の情観せとる互る後此情見此美て我くお知知此の道くは我
少互に臣子に分るを友上積事

天朝及幕府は忠義とるは此の義と観感飽慕此情は

我くお又此方上く玉城といは後一費此情不度は云く上六

別臣子尚然し分る第一も此究罪を晴し好を是此言り常此を

おお然と

天子及將軍は此王解や上り分年迄そくたは好をそめ事知交

八史多きく右根情実巨細も多し沈く誣く為る集教標

用そく此を別を和安実日月光と失ひ此を自ら好止く一日

退ら封疆と領し冷思と扱 河御事と設く雲雨冥晴の時七好可

ア中一兵力をこる向の路を役令其名を

天朝及幕府を傲りも堂くも

王者の師と右根の事高しは不道とそくを

敵意を旨と爲すも必然と爲る地絶つ平た之忠義と古所及防
我少介多岐にせしむる昔元保初夜に道臣大石内務に助宗
の十七人共主段地内通取取し因に吉良氏に復之復世内通取
百八幕府大格と帝自分大少敷に振舞うるに記元と尋
早竟吉良代に私怨に以て幕府を罷科に長身にも事
然に次身に可きとたれを一下出りて左例と以て中は皆主君に
爲るを以て内務助以下大法を把し吉良氏に復復及吉良
の何と幕初に私に忠を以て一平に也然も主君吉良氏に私に然
しせよ 幕府を罷科に罷八南然も七世十臣ありて之奉儀情実
の記ゆかふに止るに次身にも後世誰一人も忠感服者なきに遠更
し載せ劇場も侍人見るもの事りの感位流浅も忠臣烈士
と云ふ所のなきは是天性昇降に根を以て云格号金之を侍
人といふ所のなきは是より然るれ今我ありて之を中はせし海

後年之忠義始終一貫一途に

皇玉といふと水の思ふと

天朝及幕府信と天下後世の失ふに抱振る向ふと忠義信義
との事一を念に浅地内通取復も私怨に忠義の事多し
変る事といふ又京師変動と素合ししと之も忠入の助に好も
そを根元と尋せ八国志士民集る

天朝幕府 神明との誓いは精誠大高感仕居か友を後との内務

と疑惑を生し仕手にも汲ふ記するもあまるとして心測し
の不足も忠誠始終にあり復唯人数多し知し之事も務方自
ると思ふやあり多し 歎出外しし一以て早急も身上
にありぬる切續にそのあり罷ると毫末も之にたれを月
一統決死防戦七人百に生れしも一宛一罪と云う晴も其
ふ所所万世青史に載るも色利氏取る事一を恩と云う

至身之冤罪と傍觀生親友多々之口に
多是身目と具之時世と生色多々甲斐も
助以下卑七人として我々も
同服日といふ一は古遠有る
士民一統を物言ひぬ

天地照覽鬼神在旁一死不偷倣而天下後世我々も
之微志傳多謬誤ありて為一名一本と懐

長防二州臣民合議百話

刷製本三十六万有部

同服同心之士名懐一部

以備死生後多蓋使天下

万世知死決我臣士之不可止也

皇 元治二乙丑十有一月

大目付 永井直之丞

七目付 戸川傳三郎

松浦孫一市

右皇水正初某右附局之竹目付栗田耕事
一昨十二分案出作日天保山名今午刻
素及少如藤別張出古廣名
身領通程終立得共長防之祝幣八俵
建二三百人の中番人と長立他
是受少経自之九二初切極所
左之連江我年之
之由之

五十二月十日

下乳
龍心初應接之狀并送在場之品ハツル之類ト更ニ下乳
無ク由ラズト云ハ下乳一ノ積ト上ノ乳ハツル之類ト初ノ初ノ初
之上を成ラシムル旨完戸細分初ト一旦國評下乳下
知ト初乳ト何ノ如ク取子引取ト及テ幸ハ山ノ下を以テ
五倍高ト初乳ト昔高ト云々ト有テ人廣高ト表ト云々
後ノ地ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト
云々ト

長州 下ノ乳ト云々ト

考其内輪年 関州ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト
法成後一立ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト
一高ト云々ト云々ト及テ終神ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト
可ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト
既ハ何ト云々ト

一四ノ破却ト山口去口未再能ホ之評做解 其後加増理
衣並多紀ト云々ト

一詳情ト 家来ト云々ト 関未船ト 英人ト 然親接ト
一高ト云々ト 西折ト 蒸氣船ト 無人ト 賣掛ト 自家ト 村内ト 云々ト
一花押ト 有テ 書ト 云々ト 長門ト 英人ト 直下ト 初ト 云々ト
一大小船ト 英人ト 台堂ト 云々ト
一龍系ト 上ト 御ト 公御ト 上使ト 者ト 英 領ト 初ト 是ト 云々ト 各乳 諸ト 云々ト
一書ト 云々ト 初ト 云々ト 上ト 云々ト 云々ト
一諸路 監物ト 大改ト 下ト 云々ト 難法ト 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト
但ト 云々ト 未家ト 家老ト 云々ト 云々ト 合九月 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト
再云々ト 云々ト 及 延リト 云々ト
右ト 云々ト 天子 自到 御死 快ト 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト
既ト 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト 云々ト

丑十二月

永井 三
戸川 傳
松尾 孫八

備前園山 東橋上 高女 月中 立量 以 活 九 之 字

廿夜少 招 振り 上京 之 依 古 元 二 月 下 旬 絨 魁 一 橋 寄 絨 臣
黒川 赤 之 情 之 情 中 之 言 屋 驛 上 之 名 之 情 之 博 井 某 之 長 山 下
老 幕 之 身 之 長 之 和 膳 之 取 踏 之 せん 多 人 往 之 好 斗 之 斗
か 之 牧 神 権 之 山 向 市 帝 古 為 新 之 他 古 為 本 諸 絨 内 志 之 胸 明 津
忠 之 少 少 振 之 之 歌 古 之 時 藤 之 居 之 諸 屬 之 兵 馬 疎 踏 之 成 且
幕 古 之 居 合 因 疑 古 之 成 付 之 志 密 窃 血 古 之 情 之 宿 之 宿 之 宿
多 之 と 浩 之 以 共 之 上 京 之 信 朝 幕 之 官 凡 因 疑 所 信 愼 畏
戦 万 之 苟 古 之 之 律 之 好 斗 之 若 幕 古 之 和 平 之 古 之 以 天下 之
士 元 古 之 院 之 幕 吏 古 之 閑 遠 之 邪 況 之 之 張 古 之 幕 古 之 院

之 至 以 必 然 之 勢 之 以 若 古 之 如 時 之 上 京 之 内 亦 也 且 之 天下 之 笑 以
取 之 中 之 一 之 天下 之 只 烈 之 古 之 失 之 情 愼 之 不 悔 也 之 之 事 持 之 之
於 之 必 受 初 之 之 一 之 事 之 古 之 家 古 之 如 之 閑 係 古 之 甚 古 之 以
子 之 御 評 之 之 之 之 之 事

三月廿日

王 祐 愛 國 之 面

世 制 礼 取 納 之 者 且 之 之 来 之 大 侮 之 之 之 也

豊後日田陣屋詰りの事

六月十七日七月三日あふや倉長に合戦を指しに及ぶも倉長
は守り上り略し七月廿七日頃倉長子人斗や倉城迄押掛る陣と
目録大に抱かす既之勝戦危き見ゆふの出陣し肥後勢一時挫
出陣日大合戦既三日を肥後勢に討ち長人討ち名はす及以大
敗年月退陣の勝利大に揮ねり如日海り分是頃上掛り
係之肥後勢柳川幣主外流掛川稱之指押し老中七益平是時
後之勢の事如る層は之月退り此を後人方而
録ありとも翔々嘆息の法拂りや倉表係之勅指混雜立陣同
形去ら大目付の目付少使多別白如子人逐の法自身を所
後之人多人軍門退りし事如る路御定又難中是時如十倉長
事連も務陣難事とし詳多し山火式是朝の勢陣中
一時大に討及り後卯君は分家や倉長近に守り日連松丸を奉

老君如中子足纏ひはあふりの月故と書著とヤ不外は是
律事方の大隆動且夕しらるに十方石に大名の家も家も其
乱火の度博志同動を十倉の引武と右書まをさうと如く
孝仁地跡を言博志家八九人附居大雨之中老君といふ
校見文何これ後後付不倉意武者長てけだ入止む九
配と一は好見格と大札也あくの押過り一目をさあも
地と同名世也下入家来此集二防以て一御多し使名
預て一は好見格と大札也あくの押過り一目をさあも
而也下流流し此の可さ向の書流を豊後流流下向教
出立あやうに同付の使名を承てお給、宿食もあつて
常とあやうに彼も格ひも格けりて迎候、忠誠義と書
流とあは見下中
一右と通官軍、羊十倉意と書流角付代下流あやうに流流

ともし長人遊討に万事も難斗り取流の市井に河大流難く
一初推し命全義とて格とて九保平也と書流と書流と書
也とてとて取流流流流流流流流流流流流流流流流流流
流し流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流
一曰方取を曲意と書流と書流と書流と書流と書流と書流
りり道法と書流と書流と書流と書流と書流と書流と書流
虚実あふ兼何事と書流と書流と書流と書流と書流と書流
追逐りあ必然と書流と書流と書流と書流と書流と書流
流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流
と書流と書流と書流と書流と書流と書流と書流と書流
書流と書流と書流と書流と書流と書流と書流と書流
而料不承乳入と書流と書流と書流と書流と書流と書流
と書流と書流と書流と書流と書流と書流と書流と書流

航西小記附録

今般西洋常留中使侍訪生し劇ありあき
巻し風説あり本係以義夫心う苗玉の處
免角日幸う西使中ちの十と七のそり
公後奉對世多事件しあつて後々も筆記
けい文の得已き其れに航西小記中て徳入る
程波乃内情見守りて其れを以て徳入る
河内河内は有るに其れ録して波乃政府し其れ

万国の紛

巴里府滞留中の事... 万国の紛... 東欧羅巴... 中東の紛... 事... 國... 條約... 口... 二百年前...

事... 万国の紛... 只和... 二百年... 諸... 万国... 万国... 万国... 万国...

古争し近來も既に英吉利の三三ノトルコ口奪
前伐し後各國に布告したれども未だ法國も
この口をとり返さずして多かり奉前伐し後
先づは之を押後し争ひ致しつる事あり
事は其初め強し場ありたれどもり奉る事あり
富國法國は此の口をとり各國に之を信じて
多かりと遠くも強しつる事あり其先は危し
たれどもり奉る事あり

一 亞希利かき三三ノトルコ口を奪つる事あり

田人より英吉利と兩國を離るる日存する事あり
此の口を強しつる事あり其先は危し
ゆゑに事あり争ひ致しつる事あり
然るに其先は危しつる事あり
英國に之を強しつる事あり其先は危し
何れも強しつる事あり其先は危し
そは何れも強しつる事あり其先は危し
此の口を強しつる事あり其先は危し
英吉利は其先は危しつる事あり其先は危し

此等事は教しし理あり是英依り本幕府と
薩長との事ありては衛隊の指揮は必ず兵
利に在るべき事なりしは語らば

一 亞米利かのヒールヤヤル者にあてて對し是幕
府に對して船隻の物事一を点つてしむる事あり
兩國の通商の貿易の好む外國の船は
たゞ非ず凡字の國人の船はたゞ其の非ず
以て之を視てしんや欲く其の交易の好むる
能はず然りと信しり本領港に後う留めたり

又この外國人の教習は其の事ありける事あり者
るは全外國人の船は其の幕府に然りて
政府よりして送つてしむるものなるは是れ外國
人の教習は其の時政府が莫方しては種りあり
事ありしは其の幕府に存するし其の
法は其の指揮は其の事ありしむるは例
なき事ありし是れを其の幕府に存するの事
其の幕府に外國人の教習は其の事ありしむるは
世の事ありしむるは其の幕府に存するの事ありしむるは

外國人一人が十人被害をくもやるとして人種を
傷むに非ずや。あな念、何事しての事か。事之を
一任せしむるにヤルヤ、云々。蒙り存る氣候世界の
諸道地を四圍繞らし、諸産物を亦世に充たす
其の未嘗國法無く、協同を以てせざるを、**全一國**
改し、何れもなき好や。主政を以てよむ。以てん中の
ふかき美氏のふれ、後をせざる。小園に、ふかき
し、一人、用ひたるに、門を、砂し、一人、然り、美利や、
重役の、さし、省、時、夫、忽、船、廢し、再、用、する、能、故、

下人、欲、多、く、と、ま、君、蒙、の、人、多、く、是、一、國
し、こ、な、せ、る、而、之、而、和、國、人、接、する、法、利、權
時、理、之、道、は、時、を、常、時、通、す、の、後、各、及、之、未、
押、尋、る、時、を、前、ら、し、説、を、頻、詰、する、に、時、を、大、
國、し、終、る、國、し、其、や、を、多、く、福、し、事、多、く、以、其、
古、を、留、買、り、か、ら、を、多、く、と、る、國、を、好、仰、り、り、か、の、略、
商人、等、即、ち、之、の、利、の、を、多、く、得、て、吾、等、に、之、利、權
何、事、も、他、人、に、後、を、争、の、事、を、思、は、さ、る、由、え、
日本、國、中、亦、作、る、の、換、金、や、成、給、く、夫、等、

大和植るも心すこ、むらぬ秋をすりけり、少踏うす
西洋より夫初年公高賞字控のり高買の字
問を以水入り年とて、所人の子字ハ教たす、只集
用字習紙秘多市、く日新の利う知のそ左字水
日存におえ、商人ハ銭、む事甚、むり存
商人ハ字文せ、在、二流、き、子、銭、む、の、利、七
何、る、所、人、を、し、し、士、臣、の、を、任、に、お、り、こ、し、を、流、り、失、や
此、水、も、所、人、を、し、ら、し、流、事、中、小、困、せ、り、他、の、物、以
文、を、し、て、成、り、こ、見、し、事、も、士、女、に、か、り、さ、る、事、ハ、ぬ、り

高、の、道、を、も、り、年、夫、性、古、の、の、代、お、り、く、く、こ、こ、
家、を、買、之、思、し、人、セ、カ、を、し、や、く、え、是、銭、十、分
く、く、高、賞、紙、秘、し、む、の、の、多、く、く、口、存、を
く、く、富、國、流、兵、に、到、り、む、ん、や、欲、中、夫、産、物
と、家、巧、者、小、高、買、の、し、く、く、小、何、く、く、水、夫、能、見、
只、商人、も、高、買、小、困、也、く、字、同、く、も、く、く、政、府、に
七、留、買、小、心、を、お、え、し、該、産、物、を、振、り、く、く、を
流、う、得、て、そ、を、流、り、以、て、**安、器、**を、備、る、小、難、其、
流、兵、多、く、子、を、**得、**る、事、も、く、く、く、く、**政、府、**に、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

一英國一ニエトニクモ方の新ニ今世の境
抑ヨルに在る國々後ノ臣ヲたはむ事ノ容易
なるも入り事ノ如ク國々たり日存し後年未
以年平五續トニ有るも一ニ貴の位方人ヲ在
明るる小國ハ以テその好まざる事一好まざる
人ニ其後下ハ向陽所人百姓ニ世ツクマ
端々時々其後一親親州を打ち其後
之を吞テ其身ニ宝ニちあり其成あり今こそ
仁政ヲ施シ一々其政ヲ行ハル時ハ國中ハ

一初一ニ國臣ノ思ハ報せん事ヲ競ふ也
たあさ其も亦當に及ぶたあさ其も若くは
已々日存此れハ人々一國帝成作する事
あさ其後其も一官に在り通リ一人は
ふん近く事ヲ考ふる事一忽人々其様
不々ニ其國亡盡し其國帝ハ國臣ヲ其
至て其切之既ニ此其年其其帝國中
コロリ病流し一其國帝自ら其院ニ
先ヲ起す印ニ病者一其其間ニ其屬ニ

事内は故事申す事は、いふ事か、所應答也、いふ事
物、夫れ事、の法、塔と、英、の、事、を、人、の、事、を、
る、事、を、一、極、を、事、を、事、を、

方、不、法、人、の、説、法、園、塔、の、事、を、事、を、事、を、事、を、
い、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、

事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、

沖使之民

和國、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
日、文、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
英、佛、通、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
英、佛、通、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
福、地、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
小、花、作、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、

長、河、の、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
波、是、右、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
神、の、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
以、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
一、長、河、の、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、

此部不...

一、不... 二、... 三、... 四、... 五、...

一、長防... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...

一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、... 十一、... 十二、... 十三、... 十四、... 十五、... 十六、... 十七、... 十八、... 十九、... 二十、...

吾後獲備抄年正傳守不來一向振傳存反
浮甲ん付天子成地来く之是書

六月申了万表九也之申言溪田言万表
一風字廿五路在く由下

一登田の二里西面村を丁不地地入溪田の園山出来換
百人信をあるはり此言十う夕区人々押し合
第門打破溪田路人少人討死和を人登田の津地
系り又今登田を今新者く由

六月十の登田の村以登田の三馬子と陣物と溪

以人好少人福山の人好少人福古の陣あり
四村守門今長少人入以の成の道有又の表
一山陣有考く山溪の登田の山く長
人三経程不き押し合少角鉄炮打敷の溪田
福山の表少手後く表の山部溪田に馬子と表
家初少戦在溪田溪田の馬子福山少人好少表
神よか夕七う所るは乃全戦表人つう年し
退散すの福山替え信信の溪田替え了り福山
表集休見くく之報あし手あいし海気

市中長人より傳へしに、
五捕の穿通しに死せしむ

二月十日、
与中境抗する中

長谷川人谷田に、
兼平より傳へしに、
穀谷田所并に、
弟州を非る

一福山軍、
額より傳へしに、
此を都とありしに、
死すしとありしに、
中より長人、
分敷れしに、
十、
右木、

富平、
今、

今、

今及之の言付の言は所一未か知るを海向衆
作の言ふと雖も成の事然し以彼を為むに法属
之方習ふに入るべきに以威切の言は是也
遊法事を執るは一教の旨を非ざる
生障をのたの言付形存法是也之は成るに
く或る言は二名人民案外國法却出殊沙
之方属し家大統とて以進の言は成るに
多の言付を以法長し以案の言は成るに
川子なる言付を別る言は人の言は成るに

中一覽法の中しとて以法大統事法属并余
之方し玉易難支况即之し以價法勝法國水
之方成る言は勝え其言動操之は成るに
く成るに時言は依るの言は成るに
後七難斗以成深く以記ける言は成るに
以欠天時人本を以對的の言は成るに
と以成る言は成る言は成る言は成るに
本以成る言は成る言は成る言は成るに
法以成る言は成る言は成る言は成るに

初年中醫大傳多集

大田漢

七ノ一十

別紙

大急海進中唯疾年時人休之引年
何年我切方纜而持之乃廣而之陸定事
二漢元子多子中快也之括引漢中一引
之結之氣流也之火線多子引引引引引
最子乳引引引引引引引引引引引引引
也知引引引引引引引引引引引引引引

乃廣引引引引引引引引引引引引引
少引引引引引引引引引引引引引引
引引引引引引引引引引引引引引
引引引引引引引引引引引引引引
引引引引引引引引引引引引引引

朱田漢

引引引引引

引引引引引引引引引引引引引引
引引引引引引引引引引引引引引
引引引引引引引引引引引引引引
引引引引引引引引引引引引引引
引引引引引引引引引引引引引引

くまの人のこゝろは長き命の中にこそありて
無常なり

六月十日の朝に
佐久宮大守 幸宮御三子
角田林守 安喜寺の上人
御前御座り

右所記

坂平主水 山内丹次
丸山唯之進 宇佐文忠
大津益平 大塚政房

右手原

山中得兵衛 柳川常左衛門
右所記

板垣七郎 柳川常左衛門
新流道徳

右手有海子

但馬守海子 松平信俊
六月

杉年陰夜守柳之園之天修之寺之隊之
生捕丸問之之白杖之書

一 五、百人

勘定隊

從寺尾屬之妙之坪表園ノ

一 四、百人

山崎隊

從法寺集勢油之表園ノ

一 十、人

寺之隊

從法寺集勢油之表園ノ
皆探園ノ居五、百人余也其寺園之也知好ノ人程

山崎寺尾屬之妙之坪表園ノ

一 七、百人

梅野隊

從古川之隊之寺之表園之陣取之勢之也其
園ノ

一 三、百人

瑞長隊

從古川之隊之寺之表園ノ

一 五、百人

寺之隊

從法寺集勢油之表園ノ

一 四、百人

八幡隊

一 少百人

見之隊

一 少百人

志之隊

一 百人

金剛隊

一 百人

神祇隊

作集勢可衣之市分三四虎中園花園

一 三千人

山口園

從存屬壯年

一 三千人

後之隊

從山口表在園居之法可集勢

人好之勢

少子七人の勢

志之隊

志之隊

川

少子七人の勢

志之隊

方之園

少中口存性末名志之隊

松山表

禁園中付志之隊

相平隊

二月申之表并隊守隊書

去上之初領山是若村一の山床中不阿守隊

長人多ん存のほり城に近し境
城と始何そし口分押出しと
勢よく備はす御多き好い備
すは守りか九圍す、既、傍
の勢よく備はす御多き好い備
すは守りか九圍す、既、傍
の勢よく備はす御多き好い備
すは守りか九圍す、既、傍
の勢よく備はす御多き好い備
すは守りか九圍す、既、傍

痛く居て候へる名口二ノ見
下は守り甲斐守り甲斐守り
右二ノ見甲斐守り甲斐守り
守り甲斐守り甲斐守り

名地并信守

長谷川久三郎 景徳寺表名額
大寺後三三三及分以注進書

去々十の山進下へ後進へ長
分多人存の所は和物守り

久留米名海進子

今曉七時以長八人川山多ゆんる茅少海山子
が大里元高知地お能多々大里表おぬ所
所少余勢を子地お居らぬ由一願押
之大里山子か長職を改奇川山少余勢の能
可難きは偉大ゆか之を改述之ゆぬ存業を
之少余分存存接と申表お探お勢を却て
見遠地おぬ一志もつて多難ゆ一と一思
新里の時以少余勢を改述之川掃長人も

大里之地山表在村山表お能火之進子
凡十丁年り中前之長原後山分中子多事
相成る末委細し後大表お申の進子
ありて増え先お進放心飛れ大し

七り一三

乃公就平物子やう之言付

征長乃公の以後三月十之就平し物子と
ゆん進言少由大し由らぬと申す物子空親
今就平言を不長八弟月十之就平し進山由後

隈田銀公道法少里徳とありし中陣取ありし
松山勢より後より掃蕩し而して北集兵根付あり
方而院より得る人殺すに陣取に進出し
以て即時に人殺すに絶頂に赴き方而院に
大砲打止り揚少流と打ちて敵をこえ一丈とせ
之を控へて敵の進出を阻むに西側を中陣
取より集兵させ方而院に打ちて敵をこえ是亦敵
に及ばざるに打散すに敵の進出を阻むに
隈田勢より方而院に打ちて敵をこえ是亦敵
に及ばざるに打散すに敵の進出を阻むに

隈田銀公道法少里徳とありし中陣取ありし
松山勢より後より掃蕩し而して北集兵根付あり
方而院より得る人殺すに陣取に進出し
以て即時に人殺すに絶頂に赴き方而院に
大砲打止り揚少流と打ちて敵をこえ一丈とせ
之を控へて敵の進出を阻むに西側を中陣
取より集兵させ方而院に打ちて敵をこえ是亦敵
に及ばざるに打散すに敵の進出を阻むに
隈田勢より方而院に打ちて敵をこえ是亦敵
に及ばざるに打散すに敵の進出を阻むに

云昔心けり安んずるに遂に人ねりし所をよ
以の代々もつとる。 照と稱庵のけきりあり依り
けはしとて

安んずる

福田のふり

石谷の院田の地味は越下より上り付
石谷の院田の地味は越下より上り付
と安んずるに安んずるに安んずるに安んずるに
長谷の福の山は有れり。 勢田のふり

死守守紀行及以人ねりし所をよ
む長谷の院田の地味は越下より上り付
と安んずるに安んずるに安んずるに安んずるに
長谷の福の山は有れり。 勢田のふり
石谷の院田の地味は越下より上り付
と安んずるに安んずるに安んずるに安んずるに
長谷の福の山は有れり。 勢田のふり

先止の序も一日先のし方舟に寄るおきて
方部と門更退口火を動かさず所迄空形
夕九日と云ふ川の時以火を動かさず城の中は
城の中は部を動かさず是田ふ動かさず
一の火を動かさずは田属に和を配る田村
珠の由日不借日分巨進け終不城かす因に
福の勢の必死しと云ふ藩主を死城とし
城の火を城の火を城かす末別業ヤ
七方と末の碓とあかす中終不田軍日所集

酒之元陣の件通りと云ふ序の
有無の事川人多く時下りの時川下り抑
和を配る利はあえて因に軍日所あはる
と云ふ序の事因に和を配る序の事
そと和を配る序の事と云ふ序の事
そと和を配る序の事と云ふ序の事
一和を配る序の事と云ふ序の事
一月居城と云ふ和を配る序の事
月和を配る序の事と云ふ序の事

蘇之北押破之風通公等之備前之是此略也
以天下男之自其域表之人相標也其如之乎所也并
之程之及在深處之程其事以付之其也

少子之新臺分 池田近江

猿城山分 伊及集

龍宮山分

一相富分と書頭分人等以て運出の法
右に以て分る庭津分其域傳分初以て起す

右に以て法を如くして其長衣人私語に蘇之北
形勝不更月分起す其分相平備分守領分
備中國領還常分其初領分田國分國領猿城分
之領御宗之地其標人相子其分中其分其分其分
以て題表す其分其分其分其分其分其分其分其分
其分其分其分其分其分其分其分其分其分其分
其分其分其分其分其分其分其分其分其分其分

下川中九分 板倉御領分
浅尾 乃吉

一十七日申言

相平伯老守

多代 田村三三守

以從以先之命以礼同中
方取以城內牧野城中守
以取以所命 古取以城中守
中後大日所三命守以月所田所弱守
一十七日申言大取以命使書市國在左
長守取寸之長取以守軍務何是也
已之也

一十七日申言大取以命使書市國在左
長守取寸之長取以守軍務何是也
已之也
申言以取以命使書市國在左
長守取寸之長取以守軍務何是也
已之也
申言以取以命使書市國在左
長守取寸之長取以守軍務何是也
已之也

一十七日申言

申言以取以命使書市國在左
長守取寸之長取以守軍務何是也
已之也

以之計之幾年之所取也... 以行矣
... 御名之... 再物

二月十日因宿守后以渡

公方... 續... 後... 是...
... 續... 後... 是...
... 續... 後... 是...

二月十日江都東林日記

一... 續... 後... 是...
... 續... 後... 是...
... 續... 後... 是...

七月十日... 續... 後... 是...
... 續... 後... 是...
... 續... 後... 是...

城内外自燒が右近將監天國の嫡子に和して
元弘三年近江中妻あを陸路中より北へ去りて
一石傍我能行居少人相一戦もあ存り揚以抑
抑軍事節操を以て一俣方人存平ら重源より
美亦ありし家信田能の至る不辛し由少北を
同幸川揚以悔茂しし能のあえとて其種
勿得仍業も道是るあを頭法也と稱し抑
美しし漸河村新道川揚以是信田能し抑
信了是の事あり由方北河より聊能隔り遠也

一大人相するは境に居て北能行居少人相一
關門を鑿し通りて其の事後より床に傳はれ
所知く起し能りしとては傳へ度傳表を
重源の事ありし事あり

一日十のりるは方北能得白とてその人傳を
人相川揚以し奇無得分て方北能は元觸
所し能親親つ居たりし日三つより人法家
しとん傳を其流し能中流り海にあり死
美亦あり方無し返るも其し通り國中

人稱之世之自國固之方之... 日城之... 此道之... 一宿園村之北... 備後國之海... 支那之... 定時... 一宿園村之北... 備後國之海... 支那之... 定時...

備後國之海... 支那之... 定時... 一宿園村之北... 備後國之海... 支那之... 定時... 一宿園村之北... 備後國之海... 支那之... 定時...

以代官と云ふは此の如く力多と世と動搖するは
中論者も不方中守陣を成す又と見え分りし
世にても其の如くと云ふは封を却し取給し
後中論者も不方中守陣を成す又と見え分りし
百四五段人の所におもはし水信を言ひ方長と云
人程此集の所をのり封を成すも其の如く
九手續共方長と云ふは勅し之苗字若くは其
一海軍水軍村御用系村役人入隊中と云ふは
此の如く御用系村役人入隊中と云ふは

右の如く中守陣を成すは御用系村役人入隊中
林頂裁か此の如く中守陣を成すは御用系村役人
各甲乙割係り中守陣を成すは御用系村役人
又此の如く中守陣を成すは御用系村役人
一 但し海軍水軍村御用系村役人入隊中

柳田律次

方長と云ふは此の如く力多と世と動搖するは
中論者も不方中守陣を成す又と見え分りし
世にても其の如くと云ふは封を却し取給し
後中論者も不方中守陣を成す又と見え分りし
百四五段人の所におもはし水信を言ひ方長と云
人程此集の所をのり封を成すも其の如く
九手續共方長と云ふは勅し之苗字若くは其
一海軍水軍村御用系村役人入隊中と云ふは
此の如く御用系村役人入隊中と云ふは

伊代信純一先らうはしお拓付現後病を乳と
無道より中世修成を以て終に得たる辰申文
以因縁ははは成を申す事申す事申す事
又申す事申す事申す事申す事申す事
伏候おかしき事申す事申す事申す事
一十月申す事申す事申す事申す事申す事
大蛇牙の節才を産根の由明人新百の事
るお虫お蛇大蛇頭人新百の事申す事申す事

薩守人新百の事申す事申す事申す事
一書中情多事申す事申す事申す事申す事
越田吾の事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事

是を定人申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事

と作とのありて

寛七十八年

佐々井中平

相持たれども

今川要領

大休左馬

今般仁長月比人輝阿部主計以美第百中
者利多取下る名和園相近也馬一人病氣未
常留為其心系川原と少一人相相平右近將監
領方の國々金田村文近傳元左とく和日存する

曉てふ時兵送て長人凡千人斗飛并隠れ
領方音は南に日午新益田相押中
主計の人相あふ及名宛り知て知て双月後
七斗とあ月三行九勢を隠れ守領方と
二陣元は中益田と相推しと相推しと相推しと相推しと
斗操お出ん少く一手に相推しと相推しと相推しと
相持中は有主計の人相右近將監人相中
二相か相推しと相推しと相推しと相推しと相推しと
以人相と相推しと相推しと相推しと相推しと相推しと

字少礼云々

右之江長石云々之持預言云々通江生
む之江大坂度修表云々之修之修之修之
此之修之修之修之

寛七月

鍋田云々

八月十日大坂豊前中津度分道之書所
少度表云々之修之修之修之修之修之修之
炮臺築造也集表云々之修之修之修之修之
少度系云々之修之修之修之修之修之修之

三ノ川云々之修之修之修之修之修之修之
残焼云々之修之修之修之修之修之修之
新築云々之修之修之修之修之修之修之
勿修之書云々之修之修之修之修之修之
接不修之書云々之修之修之修之修之修之
自然云々之修之修之修之修之修之修之
子月何修之書云々之修之修之修之修之修之
子月何修之書云々之修之修之修之修之修之
子月何修之書云々之修之修之修之修之修之
子月何修之書云々之修之修之修之修之修之

大橋より又中河のり

奥平大橋より奥平

八月十三日

銀本力

小舟自曉落城を以て守る長谷川口是迄
肥後肥前柳川宗朝之法兵門初
舟主候在河に以て日此切試す舟
十二日一人古船未方之を以て守る長谷川橋
板屋候より直言持来より月日長谷川
紅舟船田十ヶ大坂より板屋候分直に是より

則川人柳川橋在河初紅舟系あり包
二橋より八月十三日大坂より往く此人詰
去り探ありあり柳川前初より舟主候
舟延十七日此より坂より川ありおえ
候し此迄より

八月十三日

紅舟候分直に是より

今朝より事時以て滅せ候し白柳舟初
けわわき山系に候し是より所より
何れ幸道より大坂打取候し是より

戦多事終つ味方勝利つ得し中ハ尤も子員討死
少別戦し有る者も存置軍士及び其の賊軍
押寄今戦多事し如陸軍亦終つ臆れ退行し
大地に投合捕て宮中へ向て有るも其井仔
多事も功戦し如折退下し今も戦多事
以人杯何事し七集れれ大事し持出さる
必死列戦け事

子員

以軍奉出也

水田 隼人

獨礼少番侍

近及角兵つ侍

日

日

日

御月内死去

武井 尺二

方々者如少人子員内戦死兩人
兵史子取四人

以月十廿日折寄示、留子取、張札寄

世及長宿以何代、後母有、う時、井仔、

折寄、照立、う、う、西洋丸、之、信、好、賊、

小栗井、之、力、系、川、津、之、城、中、月、方、亦、如、折、寄、之、

本、向、之、所、記、之、以、軍、制、不、以、存、置、其、年、少、子、也、
法場

不_レ辱_レし与_レ力_レ減_レず前_レ代_レ末_レの_レ事_レは
終_レる_レも_レ傳_レふ_レの_レ力_レを_レ惜_レ用_レし_レる_レ錄_レ也
手_レの_レこ_レう_レを_レめ_レと_レし_レて_レ止_レん_レ凡_レ唱_レは_レ片_レを_レ全_レ報_レ而_レ在_レ
人_レ横_レ濱_レ也_レを_レし_レて_レ貴_レ人_レを_レ籠_レり_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レ其_レ
苦_レ方_レ古_レし_レ利_レを_レ奪_レち_レし_レて_レし_レを_レし_レぬ_レ也_レ 公_レ道_レの_レ者_レ

和_レ言_レを_レけ_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レし_レて_レ其_レを_レ籠_レり_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レ其_レ
善_レ代_レ恩_レ顧_レし_レ 仲_レ之_レ孫_レ介_レ月_レ前_レの_レ行_レ河_レ集_レ
所_レを_レし_レて_レ利_レを_レ奪_レち_レし_レて_レし_レを_レし_レぬ_レ也_レ 公_レ道_レの_レ者_レ
之_レを_レけ_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レし_レて_レ其_レを_レ籠_レり_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レ其_レ

以_レ用_レ少_レの_レ身_レ之_レ事_レ為_レ新_レ也_レ如_レ唐_レの_レ以_レ漢_レ陽_レを_レ城_レす_レ也_レ
之_レは_レ事_レを_レし_レて_レ而_レ支_レ丹_レの_レ川_レ津_レを_レえ_レが_レ以_レ得_レ日_レ定_レし_レ好_レ
賊_レは_レ其_レの_レ籠_レり_レて_レ三_レ田_レを_レ奪_レち_レて_レ亦_レ打_レ其_レを_レ奪_レち_レ
亦_レ無_レ其_レの_レ恩_レ顧_レを_レし_レて_レ長_レ名_レを_レし_レて_レ長_レ河_レを_レ治_レす_レ
凡_レの_レ事_レを_レし_レて_レ病_レ氣_レを_レす_レる_レ也_レ 門_レを_レし_レて_レ其_レを_レ籠_レり_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レ其_レ
其_レの_レ恩_レ顧_レを_レし_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レし_レて_レ其_レを_レ籠_レり_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レ其_レ
は_レ彼_レを_レし_レて_レ亦_レを_レ天_レ地_レを_レ奪_レち_レて_レ亦_レ奪_レち_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レ其_レ
之_レを_レ傳_レふ_レも_レ由_レ以_レ證_レす_レ其_レの_レ事_レ人_レを_レし_レて_レ其_レを_レ籠_レり_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レ其_レ
其_レの_レ恩_レ顧_レを_レし_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レし_レて_レ其_レを_レ籠_レり_レて_レ傳_レふ_レ人_レを_レ其_レ

長河之事夫... 然... 之... 也

八月十日

侍中

沙万三娘

午... 年... 月... 日

日本新字

抄写国及

日本... 大乃... 軍... 虚... 然... 研... 水...

お座祝の事たるなり

大名と長官との事件

弟時長長官一平と方角を敵討し長官は
唐橋幸一と死をめで執事や成り
大方と二軍をとり方角と一
方角は長官を討つに僅に三人
少官は方角を討つに僅に三人
少官は方角を討つに僅に三人
少官は方角を討つに僅に三人

歌味やまに昔をたふ系うゆに國部は
長官は長官を討つに僅に三人
少官は方角を討つに僅に三人
少官は方角を討つに僅に三人
少官は方角を討つに僅に三人
少官は方角を討つに僅に三人
少官は方角を討つに僅に三人
少官は方角を討つに僅に三人

其の如く... 大内氏... 大内氏... 長...
其の如く... 大内氏... 大内氏... 長...
其の如く... 大内氏... 大内氏... 長...
其の如く... 大内氏... 大内氏... 長...
其の如く... 大内氏... 大内氏... 長...

大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏...
大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏...
大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏...
大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏...
大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏... 大内氏...

英國 ミニストル ハルリス 下の國水師

提督の海軍の後部 づう物修を度すれ

いふやうに

子方平手うの手元七月二十七日 ロンドン 英國 系

軍艦 フリセスロウカル ぬ流してセルへ下存 甘ラ三入 船

の三艘を海軍に送り馳入り時り暗空を越水角に控

たす 海陸の支系を度す志す者も多し 是れ敵

艦をたすし三島瑞分館修を度す 附 此而兼

し其の存人ありし 況に今船中ニサうにうらるる

海軍提督の任地はさうさうに申さるる

一個の艦をゆめし之 他も其の全艦隊をたすけし

分るるに致すもの故に其日他したるし かつさう

の相争の終りたるを其の兼長隊をさす 英人

提督の提督の任地はさうさうに申さるる

提督の提督の任地はさうさうに申さるる

船形を度すし 艦隊を度すの儀を度すし

時分を度すし 艦隊を度すの儀を度すし

提督の提督の任地はさうさうに申さるる

登りぬるに詔よしゆくあしかりしは
 船中より丁零に接して文に
 守門の者なりし中より一葉なり
 二十八九の程に多しかりしは
 焦れやんけりしはあふりしは
 亦りしは宮中より中より一葉なり
 水原に於ては宮中より中より一葉なり
 城を擡

あせしき若千の日卒人諸情に
 二宮後人唱しゆく人びれし中
 一寺にゆりけりしは宮中より中より一葉なり
 馳せり
 四月二十一日
 我なりせし口と云れり
 中より中より一葉なり
 兵隊に
 万大臣勢のありしは人びれし中より中より一葉なり
 西洋諸方國
 ありし人なりしは中より中より一葉なり

及水師提督移るの士は信りて(國)と云ふは
わづらひ久しうあ合はれり(國)と云ふは
推種言ふに三麦内り存内あて馳走し一凡内秘
くく(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
所打をを平し(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
日月十三日(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
の為船を来れり移るの(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
二の破列裂浮りつちや二の距離とせり大を(國)と云ふは
側て破列裂し(國)と云ふは信りて(國)と云ふは

の冥浮及他(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
日月十三日(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
廿二日水兵百十人(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
と云ふは(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
天(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
や(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
く(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
日月十三日(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
日月十三日(國)と云ふは信りて(國)と云ふは
日月十三日(國)と云ふは信りて(國)と云ふは

之教にける字和島を度々英國ニミストルおん能つ業
内りおし多きと因るなり

フリセスロイヤル船一屈見路ラお帆ヤ〜より凡運
物候の航海ヲ方〜字和島ニ去り〜日おる〜既水
先由者の用きり方ヤ〜字和島港ニ固圍ニ山形
樹木青々世山字ニ船ヲ入可〜川波を付く事〜
之挿取租長島ニは多ヤ〜字和島取明船羽柴
城市の内り〜船絶多あり人々月ヲ憶り〜也
日月ヲ請年後示其時燈泊〜字和島〜停泊後

家系好人船中〜来りおき〜其兄ヤ其ん
家系字人ヲ互き〜来り

大石の射〜

此節の兄ハ元節と多り〜
御の事件 ありし〜依り〜其下流〜
わ〜も然れ〜も表分〜其名〜
接物と祝ものハ此人なり 射了後ハ兄子乃其
介の人、船中〜ある子凡々叶〜
能事ホラ〜
加國〜もハ能讀〜トルローの戦事ノ事ヲ讀カ

泣く感の事なき事なき

月舟七の精知飲之兄牙和来きり依常例く
祝地を私好次々大砲の私好及ひ調練なき
世の貴女中凡そ千人福船の見物来り既なき
樂しき事なり 擧子なき 日々午以軍艦将卒
上陸し飲之し前々 移調練をたすき
之字如き山の象来凡そ千人来り調練なき
凡そに之を作の私好の事感之しをるに
むすしとなりしころハルリハルス水作提督

乃 泣く感の事なき事なき
あまき事なり本凡の料理を字如き山後見下
乃多きあやう苦の飲食なり世席の度の人
て力と婦人持て出席の英國の海軍
井ルツス乃トスにそ病う診定せ人事なき
我 身しやも右二醫しそ病う別病心
只之年齢の私好も病うなり 世人なき
七午来たりしをるに名割にむし心信法
歌や樂し極免わらぬ行りて多人を提

燈を獲へしとてあるが 船場をくはる多り
遠に寄る和國人の居るが好意とあつた人々
欲する言明あり之れ氏も亦日物と意あり
之好まざるを通じし時余等も甘菓物を
持たしめしに之れ情を乞ふなり
月日ナク 諸君も 西將も七 後炮を
おらん好まざるが概なり

オナリは探偵するなり 中英人の定例英國人の定例と
果し人の解しし持し系なり 幸なり

大卒を命じしれとてしと後な存ししなり 幸なり

东都市中々般勃隆之次才在戸進也

至十月私我總高先王奉内以下一奉所收先王身一諸城途
中西國之旨風輝幸和回向院境內之貧窮人集何人僅
是しゆ一戸有兩人一院内之無後孫子幼知聖性才より
冥悟亦歴之凡之知有人寄集はよまき見ゆ人も大辨めり孫く
院より少くも一人と名を名を松方と名を松方と名を松方と名を松方
院為禰高氏と大先十孫傳り相承りてと聖と名を松方と名を松方
寓居し得事申不之世傳是くしりし市中一踏高世の之聖
十七年卒在居る日向と名を松方と名を松方と名を松方と名を松方
前より遠石系迄市中々般勃隆之次才在戸進也何事も商賞傳へ六百延徳寺
法恩寺曲向院河川と名を松方と名を松方と名を松方と名を松方
下金と三三三宛居諸乃居や志也やあより結を石氏集り
諸不光着男女子供あまきまて奇々朝言か向端居る内也

七七八人失之状面持不有傳之町家取号は取つては
途中一風傳承承の海に墜入る人々難儀を成すは
中後もの月を元之毒を平とも事なきに於て互に困
りてんすつて一々如月も中たぬ次才夫とて色采納と由理
代にゆある方と也つ橋と云居川岸と後、赤前と出
浅草並木色なる吳人九名別子組札持し由風等及は橋
つあ大勢方々居如をて一々つて一々浅草河合
し者登天河屯川戸金町一時起り市中毎夜種々押出
少如と五人女三人男中人馬とて色りて居たり勢は
も難儀なる難儀くは汝人如を制如一回執合を居如
之様まで惚惚と一々居人如を執し仰る馬とて之使
の程は九斗一と勢の方之向白服く出如と一回益
九圓石尾地は吳人大難儀をて之も其馬とて八の
船

女は銀く馬とつりりり人申すつりりり右中九圓
近は好光四男九圓何まもつて一々吾人怪我人も有
之違方まの如市中定つて一酒井在馬取つて多難
五人共一力中多難なる人とも難儀と云連生如難儀
別子組とて五人種刀と後方の足と友とと意と惚と
と色りて居る人々一々とお擲と一々石尾と又と大勢
そ打身太之丈大難儀をて居る如又と居り一様
之責身とて進退をわつて居る如又と居り一様
入まら母木とて居り一々居り一々居り一々居り
丹家一色可附保色なりと云一々居り一々居り一々居り
且つ方の中と怖と仰る人馬と居り一々居り一々居り
屋下住哉と付七つり時刻を如も居り一々居り一々居り
地毎夜と居る人々一々居り一々居り一々居り一々居り

三拾三人相持候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
と一返りし商人と相持候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
其介の揚人は是れ此の申す事と申す候へども是れ預居名を在彦前を礼足
斗取に入石人は是れ是れ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
在彦前を礼足と禁持候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
情候候へども是れ預居名を在彦前を礼足
依久守所川岸の商人汁此集候節候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
八俵重なるを礼候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
之名に足年に出候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
之姓葉高人の大根を介運送候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
長下候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
例に出候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足

大の町長者所候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
社内新設増廣候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
出候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
者も多し候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
素より下候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
愛也候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
供養候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
此と又候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
と上候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
婦と娘向の候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
一日幸ひ候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
は是れ大仲候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足
是れ是れ候へ候へども是れ預居名を在彦前を礼足

此如大勢... 又て抄... 知内分神田... 多配... 又云... 惣... 八... 七... の... 湯... 二... 内... 伏... 出...

出... 堂... 沙... 知... 大... 勇... 助... 院... 所... 院...

北地一併書狀

以內怯中進以然其令其之乃其其肉領コモニヲ一ノ只為見
 也定及水上重古更 畝田友之助 富原海一節 田心依伯望之
 三浦和之節 里野井田又吉 兼 私家外之介 支那人通年未
 百連之真西人 居小屋裏由武城以如島人とし居小屋分大
 勢強出大車 足押史乞 反居以內第私を吹去系と之之暫時
 時之七千人 程一團之團 孔累之打擲之し 和之節 和之節
 後之打擲之 合月人ハ其之氣性在 其方手向以之團一団之
 快亦亦也 其出外之節 重古更 其ハ其團まのハ其其之
 手向之也 反之打擲之 重古更 其ハ其團まのハ其其之
 打擲之 其之 居小屋 水上 團田 和之節 三浦 井田 心 依 伯 望 之
 支那人 通年 未 百連 之 真 西 人 居 小 屋 裏 由 武 城 以 如 島 人 と し 居 小 屋 分 大
 勢 強 出 大 車 足 押 史 乞 反 居 以 內 第 私 を 吹 去 系 と 之 之 暫 時
 時 之 七 千 人 程 一 團 之 團 孔 累 之 打 擲 之 し 和 之 節 和 之 節
 後 之 打 擲 之 合 月 人 ハ 其 之 氣 性 在 其 方 手 向 以 之 團 一 団 之
 快 亦 亦 也 其 出 外 之 節 重 古 更 其 ハ 其 團 ま の ハ 其 其 之
 手 向 之 也 反 之 打 擲 之 重 古 更 其 ハ 其 團 ま の ハ 其 其 之
 打 擲 之 其 之 居 小 屋 水 上 團 田 和 之 節 三 浦 井 田 心 依 伯 望 之
 支 人 通 年 未 百 連 之 真 西 人 居 小 屋 裏 由 武 城 以 如 島 人 と し 居 小 屋 分 大
 勢 強 出 大 車 足 押 史 乞 反 居 以 內 第 私 を 吹 去 系 と 之 之 暫 時
 時 之 七 千 人 程 一 團 之 團 孔 累 之 打 擲 之 し 和 之 節 和 之 節
 後 之 打 擲 之 合 月 人 ハ 其 之 氣 性 在 其 方 手 向 以 之 團 一 団 之

九度方以親往其言何也也列之乎一後地とあるは出
也少あはれ事すし高方地所と如色何れも其方なく其明
日再之居候可なり候了高方不押る事人ハ於居候に居る
居る者有候し居申すまぬれは始候り之れものもなき名國
く大黒汁お極め之れ自可ぬれ事あり其極久其月下出港お
預し是又彼不ふ迄程多幣の統有出上宿礼果おお事あり
可危角つお合と上ハ何れやまの出来りし一其西河人出心
此うりやとあるはなき居候候事なりと云

二月廿六

古橋次帝候

葛山燗房助

會津赤松法

しるき通の住之船別が波におぬり自あにお徳徳上はくせんか

日役申し候事候機嫌往は初仕かし如致事候と致す方然と
私共一流望も其か何は候事本月廿六方高方地所候合酒
ね着山燗房助定ぬ水と重吉史島田從と和ぬ多由と申
向の每人兼是程を介し支那人事人おら連つてもこつら村支
人おらおらこつらと申し候事如何も大奉る身障十字候の
前より式武善人七八人出集りて多ら前魯上官の子供金
より上品こつらテナと申し候時汁と夜大奉に幾れ居り自
先と居し是と久其月程も拾ひ身人分古人と云て世
な成能合に候事おまこ申し候事大徳力候事日奉方を魯
人上直連り候事内に入式候夜と湯あり候事お誠十日候
あて人の力を信し富の川取也富の流くともあるあし呼と申
とぎ西をとも成張とあり候事おら頼りともある人教久其月
近居ると云し候事とのり候事彼代候ともお別候と云し候事

市井上と南不流と名近も流無と云ふより子と云ふ一高に
混雜之矣易古且年久事内今魯西人集らば時を一言曰て人若
日本に此傳あり如く流に形勢を東浦に云ふ己年以耳松川毎に
助ト出御也如く言ひ人より此直測と申す名目名出人老多と申
老の目も阪科おも解り申す食料を去人を去人を去人を去人を
後中日終金を以て銭中して海に流合分海亦て交り違ひ成業
彼に出入りし推察し名を亦申是分の因を申す申す名を流合
内にはなる東一園と云人松川十林ホと流報お合大也報流
日本に云ふ名も如く居事と云流又南海流去人を流と申す名も如く
仕は十ヨ口村と云流にトハラニケ子流と報流如く先年山不支配人
流居る清水年と申す河津と申す流如く先年山不支配人
と云流の如く七人の娘と登道に子流と云流と云流と云流と云流
と申す名も如く村ニシルと申す名の女房也云ニシルと云流清水

平三帝之威權をうり自らて居る如富田が妻代に云ふ如く
二呼上富内と云流報みはと云流にトハラニケと申す日本流と云流
授子と云流の如く先年と云流死云流にニシルと云流先年と云流
P以十ヨ口と名云流物流古はくを西浦と云流打合と云流如
り如く先年と云流平三帝と云流特山城内と申す如く商人仕居るを奉り出大
和守候と云流丹川と云流先年と云流と申す娘と世具を代に流年と云流
流月供と云流又と云流先年と云流我家内と云流先年と云流先年と云流
丹川候と云流娘貫と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流
と云流流と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流
お合りとのり先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流
先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流
一體も先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流
先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流先年と云流

我朝の國境は東倭居定中より東に南に侵掠新に建
物おや及はぬ月極親親に不意州一版を破ニコライイスキ
牙利の國境より一版破及以て此國士之借之元來我
之儀をムラゴウの生府之儀難治之所徳利を彼我之儀
之と南の方分年々歳々進之如多一人の南進之儀を破く
非能ある人 兵を力并に兵取網力との測量未なる所と
毎に以て推してこの南進の儀を建方足るに及ぶ所拒しは親
難治先年少我分界之儀國使并魯國都府上は誠之
所難治所損次方と之彼を帝王に於て拒ふ之親親之儀
第の中を過ぬ可き儀し者如無之者實に其約定之儀は
物未魯を去るとニコライイスキを仍力サキウイナも委
其後先國方分中上是業今に近於是儀を以て少治も無之
七カサキウイナも交代海國より一版を界は捨て自海に

アヨウ天徳寺中名接之儀難治と東交方之儀魯國分江向
我更之而然之不意更及是月少解相條理之儀難治外
新然之取取不中なるを足向少我之親親先急切向之儀
何とも却りたるは是も陳營より進根保も及ぶ所
地分界之儀業々不意元更に不意易協合の理儀なるを中も
方解物も之も中解了中解之出帆前ありとし其儀方解極親
實を以て南の方分不意合之儀再三再四及彼之儀國境
承伏不仕也去連も足向之儀も國士おて請合を及ぶ所
新進之儀然之儀も足向之儀もニコライイスキを仍力
艦使之儀この中も及ぶ所を余破利之行重見也此之儀
之出帆制限も及ぶ所も及ぶ所也中解之儀難治之儀向少
中振も是之儀も及ぶ所も及ぶ所也この足向之儀難治之
難治之儀も及ぶ所も及ぶ所也此之儀難治之儀也

忠信の次子に身^{あは}れ、事^あ成らぬ斗^あ振^ある向^あ合^あ何^あと^あれ^あて^あ風
と^あ劫^あ兵^あ任^あ一^あ時^あ権^あ四^あと^あ無^あ斗^あ力^あ中^あ道^あ時^あ四^あ勢^あ今^あ般^あ之^あ行^あつ^あ中
知^あ之^あ類^あも^あ是^あら^あぬ^あ見^あ昂^あと^あ危^あ多^あし^あ向^あ合^あ爲^あら^あず^あ亦^あ前^あ意^あ
多^あ劫^あ兵^あ之^あ上^あある^あん^あと^あと^あ海^あ上^あに^あ往^あら^あは^あ依^あ之^あ世^あ成^あふ^あ取^あ教
尸^あ上^あと^あ上^あ

宣

四月廿日

け妻のたまの言 きた京師の暴礼とよそひて

おひか

そむく^あサ^あ秋^あの^あ手^あ絶^あと^あ事^あ平^あ西^あ國^あお^あさ^あく^あき^あを^あ殺^あ向^あの^あ勢^あ
あ^あひ^あ先^あ手^あ絶^あ速^あ恨^あと^あす^あて^あむ^あん^あの^あ名^あと^ああ^あら^あす

長^あの^あ裁^あ後^あの^あし^あり^あと^あ事^あ一^あ勢^あに^ああ^あは^あき^あを^あ出^あし^あが^あみ^あ致^あさ^あす^あ
い^あお^あゆ^あり^あ一^あか^あを^あ味^あ方^ああ^あき^あと^あ事^ああ^あら^あん^あ一^あと^あ今^あ厚^あの^あけ^ああ^あら^あ
う^あよ^あか^あの^あ勢^あた^あち^ああ^あき^あと^あら^あぬ^あと^ああ^あら^あた^あら^あぬ^あの^あ同^あ勢^あに^ああ^あら^あ
こ^あの^あし^あな^あゆ^あを^あさ^あす^あて^あの^あ勢^あに^ああ^あら^あぬ^あと^あ事^ああ^あら^あん^あ一^あと^あ今^あ厚^あの^あけ^ああ^あ
い^ああ^あら^あぬ^あと^あ事^ああ^あら^あん^あ一^あと^あ今^あ厚^あの^あけ^ああ^あ
と^ああ^あら^あぬ^あと^あ事^ああ^あら^あん^あ一^あと^あ今^あ厚^あの^あけ^ああ^あ
か^あぞ^あ君^あも^あは^あら^あぬ^あけ^あて^あゆ^ある^あ孫^あを^あ名^あ家^あ来^ああ^あし^あ徳^あ川^あの^あち^あを^あた^あ
せ^あぬ^あ重^あ恨^あ殊^あも^あさ^あら^あぬ^あと^あ事^ああ^あら^あん^あ一^あと^あ今^あ厚^あの^あけ^ああ^あ
目^あも^あな^あら^あぬ^あ

前亮也一件一有魯西亞大町使臣の言

薩摩藩建白

即今内政危殆之時、臣等所共憂也。夫治國之道、必先正其身。而正其身、必先正其心。心正則身正、身正則家齊、家齊則國治、國治則天下歸之。此乃古之聖王所以成功立業者也。今我藩之政、雖有可觀之處、然其弊亦多矣。一曰、用人不明、賢才不進。二曰、賦役不均、民力凋敝。三曰、刑罰不察、冤獄叢生。四曰、學校不修、士氣頹廢。此皆所以致此危殆之由也。臣等竊思、欲救此危殆、必先正其心。而正其心、必先修其身。身修則心正、心正則身修。身修心正、則家齊國治、天下歸之。此乃治國之根本也。臣等謹將所見之弊、條列於左、伏乞 閣下 聖鑒。一、用人不明、賢才不進。二、賦役不均、民力凋敝。三、刑罰不察、冤獄叢生。四、學校不修、士氣頹廢。臣等謹將所見之弊、條列於左、伏乞 閣下 聖鑒。

と云ふ名分大儀判然と云ふ鳴りて罷り合ふ一は方官を以て勢三
之に及ぶ節一云下は身目古閑は是名無様之の振と成然と云
所より澤は是也や國人より初下言に於てを却る振に留世
而職者之る却る節と云ふ也出づ物合は事由以前案と云
度り我由開に大儀の請難は合生有る事取知はし
少好と事の初は言ひて事取知も取知し然るを執事取知
其分と云ふ節中執事取知し以てしと云ふ也

云

甲子月一十日

大久保市飛

右之西板倉閣老上居生為抄賜之と云ふ月一と云

一 所再開出致さる

一 大信天子並みは口上る事

一 抄海に是形後身は長大夫也と云

一 象約勅許之

一 兵庫家港之

右之事件は幕府に先難く之中と云ふ之の事也

右之の事は口上る事

右之の事は口上る事

右之也

○ 四月廿二日 三未 遊吉川公使有る紙 品書 飛書と
云ふ也 書 函 字

今般字家

伊我神の紙に於ては先づ大信天子自死し可申進との事也
然る後も是れ力に依りて伏し居る名儀代に先光の道に
為し之を全神家之先光定戸浦島女の一筆 居る事也
是等之紙一は 右之の事 是等之紙 到 飛書と 云ふ也

○毛利三家並吉川 監物 王外右衛門 吉岡守
於廣島五月廿七日 吉岡守 監物 王外右衛門 吉岡守
於大坂表白 監物 王外右衛門 吉岡守

書付

松平忠房書付

上野白吉書付

長州へ来るに吉川 監物 王外右衛門 吉岡守
半之守印 監物 王外右衛門 吉岡守
書付 上野白吉書付
松平忠房書付
上野白吉書付
今夜

今夜

松平忠房書付

幕府

所載件 監物 王外右衛門 吉岡守
長州へ来るに吉川 監物 王外右衛門 吉岡守
半之守印 監物 王外右衛門 吉岡守
書付 上野白吉書付
松平忠房書付
上野白吉書付

別紙

御取交分書 監物 王外右衛門 吉岡守
御取交分書 監物 王外右衛門 吉岡守
御取交分書 監物 王外右衛門 吉岡守

しるし

幕府下

敵意は遠奉り不海に示す事あり及 所達白と奉り
不武に不旨少許結ぶ事と遂に戊午年奉り幕府に書を陳
内憂介意

皇國未だ有力の所奉り一旨所請親り奉り奉り奉り
幕府にあり今一陳

敵意所達奉り力未だ天と疑ふと解す下と少一旨所
奉り海に書り奉り奉り

大樹云

町上長

勅使

自今迄所國乞

天下に布告有らば及も長手知少探用の上

台流云

町上長

敵意の向ふ如く因縁約に因り

み出海にと言上思ふ

勅使の事を無しと信言奉り

絶望の約定は高村に及候印も及候布に絶望に及候
皇國未だ有力の所奉り一旨所請親り奉り奉り奉り

六徳義者存候接り有らば
宿務の目録書聞光の連及も及候奉り

敵意

台意共接り及候確定して及候付法に及候事あり

大樹云 町上長長村明に及候事

勅使

台意と接り及候事あり及候事あり及候事あり
及候事あり及候事あり及候事あり及候事あり

幕府に書り奉り奉り奉り奉り奉り奉り奉り奉り

長と接り及候事あり

東松本 沙天子様へは是と云ふ事 元禄二年

皇國重天と奉り前件は有らば

敵意は是事 右方山取 順ふ事は一先 和見は是

主能ふ事と奉り取懸る事 有らば 一旦此ははははと云ふ

一統御事 是事は 際り

副も是く取懸は是事は是事 是事は是事 是事は是事

御外事大率 是事は是事 是事は是事

勅接身也 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事

天朝 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

是事は是事 是事は是事 是事は是事 是事は是事

西定 是事は是事

是事は是事

是事は是事

是事は是事

也

所方殿標多事

所忠誠一氣、懲滅侍者、

町園經中連

所定罪之書、臨思之方、一事、執子、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

所定、侍者、多死、之、津、

ぬるら共此の下掃破破て其も乃て終ふ
ある殿様御書より申すは志願の海に於て物と手指合
通才去とて割りやきとてし更に申候に其の旨は
所存の如く申す一歩返らば一歩と進ま二州の城に
飛名多し天の万世と違ふ人との事なり必定
苦重痛くして至りて然るは天難ありて其の
抗其力とて一社様は御座候に申すは所
下二州士民此を以て然とて申す不可
傍りて思ひ候一何れ申すは一統儀
公より申すは上より申すは下より申すは
長政士民申す

西宮
申す

長政士民申す

松平伯耆守御書
例又畧此を以て秘密二条申す
紀伊殿彼是に於て長政の如く
信じて交々更上り候も其の旨を
先二拍り多しとて之を以て勅
結罪に命じ候事

七月

松平伯耆守

両国老
此の如く説得人も其の旨を以て
存し其の旨を以て別
分には場人知れし
て其の旨を以て
其の旨を以て

其方有先祖も亦如武田の流くは及教小の及は度色
教如對幕府有寛大之形並に生虜之者甲多傷人加業
用政地村を逆もつるは無氣速く陣を引くは悉穢古流
二重の守と茂樹を勿更也と云ふ事也

右を去る十一の紀の快宗老有中左門内藤云云云

信長の中を信長板倉板倉惣督之義の委任承り此取
代り代り老を云と云紙之白太田信元と云附屬と云
の信長古也

薩州の信書

世に長防の付入の亦か信長在國は由んて其迄寧く天下
之の度より有る

禁示瀧の勢其之令と云と好を一は毒を引他を任は城に根を
こゆるを云計一少取無隊之人取はるは並に北水被振海に

入漢道之京着之賊は信長は南時信物に云く自北水は是

の信長に云上

七月十七日

長州の右指馬生捕人下附属之者也

井伊掃部頭
榊原武敏大捕

七月

は云付と云人く云と無き云云云

京州の信長書後年

此方之者九平取只之如何大田表と申如之押出降九居
以方下之関五年大款也。志通和山火子あり吾国
親の如くはるに藤原の口を至り伊藤平忠軍降只と如何公
義之人救義紀伊後月幣渡之中救我君降早打之る結
り右次才扱義人救流跡終之の足也と申す得九也
面也之語情しす之を難まか去中切面し傷入戦也大出陣
之者心中押斗抛才余救事多し報所恩澤之痛一統和祖
子配来と云厚志心持たるを是のの軍政也交革等も進
化長途とるを是に對し難得し之の如く是を以て原馬子下
し可く是を付下し一也

右於其書百老中 總後氏列全用付了深さ
八月

寅八月十二日 朝廷上極奉獻之字

私義大樹為名代出張之儀也 聞百廿位賜以暇不日之存途可任
幸存の如大樹病仰足重し以敷諸君一統の傳軍仕り及も可
之成九可能儀之解兵之及以集る為指押 出陣後也小笠原義家
後殿門揚由及可江成之誠以私儀征長之天任事分形唐帝聖人
此新も可下上之如目前之急務也
國家安危之界も可あり自其方と例一才行史勉法仕忠也
此危の如前成之事勢立到り諸君引揚上と集る言上仕り色居
力兼之私北上諸君之指押不詮此受末程又諸君あのみも兼
而之少由之も之危の如指儀之解兵仕りも必定之也之見据も可是
生解をも以場におのそ急事諸君と吟集候く之見込も篤し承
座利害得失論定之と天下之得失も由是之進退之存否も私
儀之と格別也 川原恩志 厚志心持出陣候

今更右様之儀言方仕りて

朝廷上奉對事之儀懼千万有餘之儀上

此大事之儀、御入言方、自至情難止言上仕りて何

事寛之儀、思五宗御業之儀、御入言方、中万言方

河津言方、河津言方、下様言方、御入言方、御入言方、御入言方

事不利言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

閣下之儀、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

八月十六日

右系内之御事奉獻之儀

元一、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

尾張前大納言様 松平閼波様 伊達左近将軍様

松平下御言方 松平堂様

濱田候下長防士民の上書

再拝 濱田候下、白毛之入、父子是年未

勅從台流之儀、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

厚く、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

台流之儀、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

年小續家、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

て完戸、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

之儀、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

矣、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

二、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

其、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

天、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方、御入言方

長岡良一印 様

柏首一各代と申す一前集一不五振り直
閣下、喜河侍人得る國内一統合儀此より我々も亦
領也此に此集此より言ふれば事一道と信也尚ほ此
中ハ此其変るに隣一吏部任ハ事ハ此より言ふれば
以上此其詳也

長防士民中

別紙之通より先下及後移り如以兵力通略に與る
如以友之類及様哉此より傳り如以兵力通略に與る
如以友之類及様哉此より傳り如以兵力通略に與る
閣下、喜河侍人得る國内一統合儀此より我々も亦
領也此に此集此より言ふれば事一道と信也尚ほ此
中ハ此其変るに隣一吏部任ハ事ハ此より言ふれば
以上此其詳也

長防士民中

石州出張名中

濱田方之返書
此旨柄自一札の別札に我々未信見候し、若くは先下
後とも月々御心成一向御心成一向御心成一向御心成
一向御心成一向御心成一向御心成一向御心成一向御心成
一向御心成一向御心成一向御心成一向御心成一向御心成

濱田出張中

別紙

此旨柄自一札の別札に我々未信見候し、若くは先下

素占降信恭頌之道とて一々對
天幕以忠告及兼中三之報に傳中在能るも其意何れが
其責を以て危しむるに下中も五月十二日益田表に札入る
長所願中傳亦抗也之に少は三之隅迄進入るに於て未だ
其水敵一是迄傳承し一は相違めりは是限也之に
降信に交際も之に下中も私怨に之を危しむるに於て未だ
以て其意を明し
天幕之命を以てし以て之を已し事一々之に如又進取の傍子
抗也未降之報愈恭頌之助とて之に以て之に隅益田表に退行
天幕之恩命を以て企及せり以て之に以て之に隅益田表に退行
報之傳中在能るに在り新に之に上

濱田出張中

六月七日の出張濱田領之者分好紙写

- 一 此所の報津和村の使者濱田へ来りて濱田より面談の上表紙
より其意を傳ふ也 以て對して之に以て之に隅益田表に退行
- 一 紀前雲所福山濱田表の使者濱田より面談の上表紙より其意を傳ふ也 以て對して之に以て之に隅益田表に退行
- 一 出張に由りて之に進上るに於て之に以て之に隅益田表に退行
- 一 一家兵隊元奉行人來りて之に以て之に隅益田表に退行
- 一 此所の使者濱田より之に以て之に隅益田表に退行

六月七日

一 傳用書物と傳肉に入事あり

一 織徒る女移人秘十七方新語多十帝宅志國公崎世家内隅之控案
 以上は是を軍目附院に於て多収さるべき事也

一 織徒一内親也市月捕之味は了言中は凡て差場多十帝宅の在
 中上迄多終裁多あり也

一 傳用此の軍目附長天川より伝授あり傳和此のる女移人秘
 秘伝といし一此秘案の道り伝授あり是の事也

一 織徒千石宅の者織徒秘裁の良者陣向の良者あり
 一 織徒長入世本あり女移人秘入の事あり此の事あり凡そ定派
 したる所は山あり此の事あり凡そ定派したる所は山あり

一 言傳益田の事あり此の織徒凡の事あり此の事あり

想大相と傳來に秘裁あり大相と別
毛利傳の者

一 織徒を大洲と云ふ織徒は是の事あり

一 織徒を長入と云ふ織徒は是の事あり

一 織徒を長入と云ふ織徒は是の事あり

一 織徒を長入と云ふ織徒は是の事あり

一 織徒を長入と云ふ織徒は是の事あり

一 織徒を長入と云ふ織徒は是の事あり

一 織徒を長入と云ふ織徒は是の事あり

一 織徒を長入と云ふ織徒は是の事あり

一 織徒を長入と云ふ織徒は是の事あり

一 之方出ある中少倉屋を村田細押流を各津和地願三万石
余しと半分を法をせしめり

一 細子と申す并拂成る園を所為と申す法成りしと申す
一 津和地長町古蓮流所為と申す園東分抄を大名責負あり此
津和地と経動しし

一 織田と山内合戦未遂なりし事連なる事

一 先織と山内合戦の事 戦ひ終りて法成る事 戦死の事
此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事
と號し續しし 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事

七月の事

紀廣徳天皇書

七月廿七日の地 延喜の明名迄此所大難山及之山内 是編事
一手に成る明名細事なり 此集此事長人騎兵出居

と斗付れ右なる後抄り并分捕り 此等事の内山内と法成る事

吉田之告付取

吉田之告付取

一 師長と申す 一 一統一統

八月廿七日付之 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事

取捨我は法成る 敵討 每人取しと申す 朝分と申す 此等事の内山内と法成る事
物川の難戦也 吉田之告付取 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事
利未と申す 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事
手負と申す 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事
是と申す 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事

一 今朝之後此敵を人取絶えし 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事
此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事
此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事 此等事の内山内と法成る事

張其如以方振印使南大連某公臣海軍を不中ふたは
 公急造陸軍方始大御使家ノ人教也日俄勝利を告ぐに位也
 中七日日躍上り一君上も一院満望し也教を以て我事大也
 勝利を以て難とすも此度と異なり伊家查り及る勝利を以て
 東の角の色と解し不勝利明を和抱多しとすし大角を
 更な使之級は方振西洋に秘絶言一息に融かす人古語能懐懐多
 のし一勝利と居る事とす之は法極古手厚く風中より一海軍
 一なる位也此の如く巨細をわする

八月の癸亥の事 小田原の事 未出字

去月中海軍再軍の所へお如大連改修を以て和使印を
 少好見ゆと一時休兵無難属人動議志をく自強地代と志く
 敵と奪奪尚不悔子の大掃取に及撃とある多し山主人書意
 去屋物未補地況は程才し我事し事絶苦我の事

張其如の事 兵を徹も節々し中と見 容易に打甲中石
 那路も高時濱田と引退之益田也と望言即し以旅子天下に愛
 とおれは所も是し中へ依る所も海軍に始出張も
 と好見是し中へ依る所も九列 早も海軍艦を揃はせおる事
 是し中へ金銭を以て 公急造兵艦の軍艦を以ておる事
 明帝皇子一日しおの兵判り改革を以て長八の御前とす幕
 威も不振る事ありて薩も津不切なり南河も
 公急造の艦出ホ一切是等事也既之文形取然多し中へおる事
 以上も 公急造も今一層の奮發を以て 未出とす事し
 新に薩藩も一時奮發を以て 未出とす事し 未出とす事し
 内実を伺ひ又と侍観し 未出とす事し

小田原の事 未出字
 横濱の事 未出字
 瑞西國の事 未出字
 フレニワルト 未出字
 山登

峯親去市役と云々云々
な海りと云々
述り如神
心持
尚東
友
口達
富士
如之
同前
度も
有
れ

度
大
通
是
吳
一
少
口
你
自
一
札

七月十一日

松本良虎

大久保加賀書展

福智書展

河川結書

少壯若獲書

横濱七海之瑞西園コシニ元世子ラールフニリトト多路林
富士山下系落り了了一なる預出多日其後河内守在
明令横濱表出之配向時兵部海邊結城
御園所過り燈籠在右之配向方不名あるあり
此是是招之助汝之中上里の道達有之候なり

七月二日

徳川中納言

今度日本經營の事多言言はれぬも有之候と
前將軍曰候事は係頼之遊多る改勢之郎是也
此和極極之増之旨 仰河内守之奉

寛八月七日

右八月十一日奉命

慶應二寅年八月廿五日 和イギリス使船入港 海外新聞書

シユルマ子ヤの教

プロイスとオーストリアとの仮条約六月十五日 和子コロホルグと
云所より盟約せむとぞ

フランスの教

國王世世川ベケイ云所より居て老市一集會海議有且おほく
馬或を硝石ちと賞入るると我の玉才の人氣三三月はまを八戦争
とまじらひ一不呼と八我の起るるる知る人の心おりのおけ子おまじら
○或新聞紙は政府の奸謀をプロイスとオーストリアと互ひお
いどにかゝる後少なり一はメキシコ一氣やとを力とるることありと
や一ハ志の四一あらぬのこさやう政府やて進まは新聞
なきささ一止たう右をどれことわて國中一は何となすおび
やのちうらぬやまう

プロイスの事

國王自ラ評定所ヲ関キ自分関キ重大ノ事也諸役人諸軍士ヲアツメ今度
ガーストリアノ戰命勝利ヲ得タルハ神ノ助ヲ蒙ルコト勿論ナ
レトモ又各々ノ一致ナシテカヲ尽セシニヨレバ褒賞セズハ有
ヘカラズトテ厚ク謝ラレシトゾ

オーストリアノ部

此國ノ政府ニテハプロイス國ノ債金ヲ出スコトニカ、リテ勤
定奉行ノ補助ノタメトテ集達者四十人余モ人撰セリコノモ
ノドモ多々集論議シテ申ケルハ國中ノ内地ヲ取々ロイスニトラレ
居トコロ有テタラ難波ナレバサシ當、用金申付ル丁ナルマシト
申出シヨバ種議論アリテ終ニ兩替屋ヨリ借用シテ辨金ノ
丁ニ決定セリソノ仕方ハ利分ヲ出シテ銀札及ヒサキニイタリヤ。
國ヨリ取ベキ償金トヨ貨物ニセム丁ニ定ム勅定奉行始メ矣

論ナク同意ニ兩替屋仲間ニ相諾セシ事ニ。ローテスキマイルト言
者カ一人ニテ百六十萬ドルヲ出銀セムト言出タリ其他富商ア
レトモソレホトノ人ナシ

アメリカ部

上下ノ評定所ニテ。テ子シ一國ヲ今般合衆國ノ部ニ入ル。コトニ定
定シテ大頭領モ承知セラレ印章ヲ下サレタリアメリカ子ハサキ内丸ノ時南
アメリカニ屬セシカ今海峽セリナリ
○將軍テキスト言人今般ハトギ子ト云地ノミニストルニ命セラレタリ。ク
ラントウ。ト言人將軍ニナリ。シルマン副將軍ハゲツト新ニ提督ニ命セ
ラレタリ

イギリスノ部

此國七八年前ヨリ。アメリカ國マテ海底ニ。三千里ホトノ所テレガ
ラフ。ヲ仕掛テ音信ヲ通ハス丁ヲ作り初シガ此コト漸ク落成
ニ相成シニヨリテ女王ヨリアメリカ國ノ大頭領マテ賀詞ヲ申ヲ

山人生補之也、然其女、會廣より、然其女、其日名也
角七生補之也、其女、其日名也、其日名也
上様守心、其女、其日名也、其日名也

高方、其女、其日名也、其日名也、其日名也
位白米、其女、其日名也、其日名也、其日名也
い、其女、其日名也、其日名也、其日名也

荒、其女、其日名也、其日名也、其日名也
は、其女、其日名也、其日名也、其日名也
二、其女、其日名也、其日名也、其日名也
と、其女、其日名也、其日名也、其日名也
又、其女、其日名也、其日名也、其日名也

何、其女、其日名也、其日名也、其日名也
途、其女、其日名也、其日名也、其日名也
も、其女、其日名也、其日名也、其日名也
其、其女、其日名也、其日名也、其日名也
八、其女、其日名也、其日名也、其日名也

籠、其女、其日名也、其日名也、其日名也
之、其女、其日名也、其日名也、其日名也
と、其女、其日名也、其日名也、其日名也
上、其女、其日名也、其日名也、其日名也
執、其女、其日名也、其日名也、其日名也

四、其女、其日名也、其日名也、其日名也
大、其女、其日名也、其日名也、其日名也
月、其女、其日名也、其日名也、其日名也

右京の身は... 道... 少... 家... 年...
六... 義... も... 道... 一... 年... 死... 存... 家...
道... 風... 子... 主... 日... 写... 道... 方... 友... 道... 如... 臨... 何... 甚... 上... 好... 事...
ひ... ら... す... 道... 彼... の... 事...

